

8. CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）を参照した分析方法

本調査における CEFR レベルの算出は、「生徒質問紙」に掲載の「英語 CAN-DO アンケート」への回答結果をもとに分析した。「英語 CAN-DO アンケート」の各アンケート項目は、CEFR のリーディング、リスニング、ライティング、スピーキング（発表）、スピーキング（やりとり）の各レベル A1～B2 に対応した CAN-DO 記述をベースにしつつ、さらに A1 を 3 段階に、また A2～B2 を各 2 段階に細分化した、文部科学省・科学研究費助成事業の CEFR-J 研究開発チーム（代表：投野由紀夫）の研究成果を用いた。

○「英語 CAN-DO アンケート」で用いた CEFR レベル段階数：

B2 レベル→ B2.1、B2.2 の 2 段階（B2.1 よりも B2.2 が高いレベル）

B1 レベル→ B1.1、B1.2 の 2 段階（B1.1 よりも B1.2 が高いレベル）

A2 レベル→ A2.1、A2.2 の 2 段階（A2.1 よりも A2.2 が高いレベル）

A1 レベル→ A1.1、A1.2、A1.3 の 3 段階（A1.1 よりも A1.2 が、A1.2 よりも A1.3 が高いレベル）

※P. 14～15 参照

また、各アンケート項目への回答は、以下の例のような 4 つの選択肢の中から当てはまるものを 1 つ回答する形式とした。

○アンケート質問例：

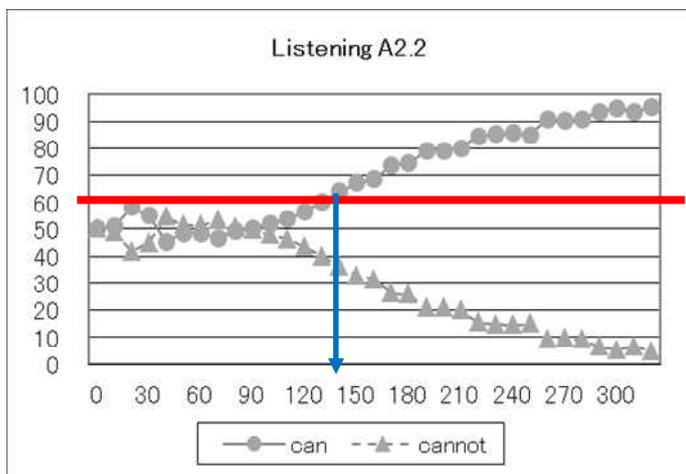
簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。

- ① 経験あり。できる
- ② 経験あり。できない
- ③ 経験なし。できると思う
- ④ 経験なし。できないと思う

集計に当たっては、各アンケート項目で記述している言語活動が「できる（can）」と判定する方法を以下の基準に従って求め、「できる（can）」と判定された回答者（＝受験者）の英語テストのスコアと CEFR レベルとの閾（しきい）値を設定した。

○ 閾値の設定方法：

- ・「英語 CAN-DO アンケート」への各回答のうち、「経験あり。できる」と「経験なし。できると思う」の二つを当該言語活動が「できる (can)」の回答とみなし、「経験あり。できない」と「経験なし。できないと思う」の二つを当該言語活動が「できない (can't)」の回答とみなした。
- ・アンケート回答者のスコアが高まるにつれて、「できない (can't)」の回答割合が減少していき、一方で「できる (can)」の回答割合が増加する。そこで、アンケート回答の「できる (can)」の割合が 60%³を上回っている CEFR レベルを抽出して、英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルとした。
- ・英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルを決定する際、A1 レベルを細分化した 3 段階のうちの 2 段階目、また A2～B2 レベルを細分化した各 2 段階のうちより高い 2 段階目のアンケート項目において「できる (can)」の割合が 60%を上回っている CEFR レベルを、英語テストの技能別スコア帯に対応した CEFR レベルとした。



左記 Listening A2.2 を例にとると、A2.2 のアンケート項目「スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。」に対して、「できる (can)」の回答が 60% を上回るスコア帯は 140 点となるため、これを A2.2 の閾 (しきい) 値とした。

³ 本調査における 60% という cut point の設定については、これまでの様々な調査結果から「日本人学習者は自分の能力を過小評価する傾向にあること」、「より確実な can-do 項目とするためには、50% よりも高い位置に cut point を設定した方がよいこと」がわかっており (ベネッセコーポレーション、「『GTEC for STUDENTS 推奨スコアガイドライン』作成調査報告」、2011 年)、60% を選択した。なお、これよりももっと高いところに cut point を設定すれば更に確実性は高まるが、一方で学習者が「できる」と言えることが減少していくことを想定した。

【参考】CEFR-J ディスクリプター (A1.1~B2.2 のみ抜粋)

○読むこと

| A1.1 | A1.2 | A1.3 | A2.1 | A2.2 | B1.1 | B1.2 | B2.1 | B2.2 |
|---|---|--|--|---|-------------------------------------|---|---|--|
| 「駐車禁止」、「飲食禁止」等の日常生活で使われる非常に短い簡単な指示を読み、理解することができる。 | 簡単なポスターや招待状等の日常生活で使われる非常に短い簡単な文章を読み、理解することができる。 | 簡単な語を用いて書かれた、スポーツ・音楽・旅行など個人的な興味のあるトピックに関する文章を、イラストや写真も参考にしながら理解することができる。 | 簡単な語を用いて書かれた人物描写、場所の説明、日常生活や文化の紹介などの、説明文を理解することができる。 | 簡単な英語で表現されていれば、旅行ガイドブック、レシピなど実用的・具体的で内容が予想できるものから必要な情報を探することができる。 | 学習を目的として書かれた新聞や雑誌の記事の要点を理解することができる。 | インターネットや参考図書などを調べて、文章の構成を意識しながら、学業や仕事に関係ある情報を手に入れることができる。必要であれば時に辞書を用いて、図表と関連づけながら理解することができる。 | 現代の問題など一般的な関心の高いトピックを扱った文章を、辞書を使わずに読み、複数の視点の相違点や共通点を比較しながら読むことができる。 | 記事やレポートなどのやや複雑な文章を一読し、文章の重要度を判断することができる。綿密な読みが必要と判断した場合は、読む速さや読み方を変えて、正確に読むことができる。 |

○聞くこと

| A1.1 | A1.2 | A1.3 | A2.1 | A2.2 | B1.1 | B1.2 | B2.1 | B2.2 |
|---|--|--|--|---|---|--|--|--|
| 当人に向かって、ゆっくりはっきりと話されれば、「立て」「座れ」「止まれ」といった短い簡単な指示を理解することができる。 | 趣味やスポーツ、部活動などの身近なトピックに関する短い話を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。 | ゆっくりはっきりと話されれば、自分自身や自分の家族・学校・地域などの身の回りの事柄に関連した句や表現を理解することができる。 | ゆっくりはっきりと放送されれば、公共の乗り物や駅や空港の短い簡潔なアナウンスを理解することができる。 | スポーツ・料理などの一連の行動を、ゆっくりはっきりと指示されれば、指示通りに行動することができる。 | 外国の行事や習慣などに関する説明の概要を、ゆっくりはっきりと話されれば、理解することができる。 | 自然な速さの録音や放送（天気予報や空港のアナウンスなど）を聞いて、自分に関心のある、具体的な情報を聞き取ることができる。 | 自然な速さの標準的な英語で話されている番組や映画の母語話者同士の会話の要点を理解できる。 | 非母語話者への配慮としての言語的な調整がなされていなくても、母語話者同士の多様な会話の流れ（テレビ、映画など）についていくことができる。 |

○書くこと

| A1.1 | A1.2 | A1.3 | A2.1 | A2.2 | B1.1 | B1.2 | B2.1 | B2.2 |
|------------------------------|---|---------------------------------|---|---|---|---|--|--|
| 住所・氏名・職業などの項目がある表を埋めることができる。 | 簡単な語や基礎的な表現を用いて、身近なこと（好き嫌い、家族、学校生活など）について短い文章を書くことができる。 | 自分の経験について、辞書を用いて、短い文章を書くことができる。 | 日常的・個人的な内容であれば、招待状、私的な手紙、メモ、メッセージなどを簡単な英語で書くことができる。 | 身の回りの出来事や趣味、場所、仕事などについて、個人的経験や自分に直接必要のある領域での事柄であれば、簡単な描写ができる。 | 自分に直接関わりのある環境（学校、職場、地域など）での出来事を、身近な状況で使われる語彙・文法を用いて、ある程度まとまりのあるかたちで、描写することができる。 | 新聞記事や映画などについて、専門的でない語彙や複雑でない文法構造を用いて、自分の意見を含めて、あらすじをまとめたり、基本的な内容を報告したりすることができる。 | 自分の専門分野であれば、メールやファックス、ビジネス・レターなどのビジネス文書、感情の度合いをある程度含め、かつ用途に合った適切な文体で、書くことができる。 | 自分の専門分野や関心のある事柄であれば、複雑な内容を含む報告書や論文などを、原因や結果、仮定的な状況も考慮しつつ、明瞭かつ詳細な文章で書くことができる。 |

○話すこと（発表）

| A1.1 | A1.2 | A1.3 | A2.1 | A2.2 | B1.1 | B1.2 | B2.1 | B2.2 |
|--|--|--|---|--|---|--|---|--|
| 基礎的な語句、定型表現を用いて、限られた個人情報（家族や趣味など）を伝えることができる。 | 前もって発話することを意識した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、簡単な意見を言うことができる。 | 前もって発話することを意識した上で、限られた身近なトピックについて、簡単な語や基礎的な句を限られた構文を用い、複数の文で意見を言うことができる。 | 一連の簡単な語句や文を使って、自分の趣味や特技に触れながら自己紹介をすることができる。 | 写真や絵、地図などの視覚的補助を利用しながら、一連の簡単な語句や文を使って、自分の毎日の生活に直接関連のあるトピック（自分のこと、学校のこと、地域のことなど）について、短いスピーチをすることができる。 | 使える語句や表現を覚えて、自分の経験や夢、希望を順序だてて、話を広げながら、ある程度詳しく語るることができる。 | 短い読み物か短い新聞記事であれば、ある程度の流暢さをもって、自分の感想や考えを加えながら、あらすじや要点を順序だてて伝えることができる。 | ある視点に賛成または反対の理由や代替案などをあげて、事前に用意されたプレゼンテーションを聴衆の前で流暢に行うことができ、一連の質問にもある程度流暢に対応ができる。 | 要点とそれに関連する詳細の両方に焦点を当てながら、流暢にプレゼンテーションができ、また、あらかじめ用意されたテキストから自然にはなれて、聴衆が興味のある点に対応してプレゼンテーションの内容を調整し、そこでもかなり流暢に容易に表現できる。 |

○話すこと（やりとり）

| A1.1 | A1.2 | A1.3 | A2.1 | A2.2 | B1.1 | B1.2 | B2.1 | B2.2 |
|--|--|--|---|--|--|--|--|--|
| なじみのある定型表現を使って、時間・日にち・場所について質問したり、質問に答えたりすることができる。 | 基本的な語や言い回しを使って日常のやりとり(何ができるかできないかや色についてのやりとりなど)、において単純に応答することができる。 | 趣味、部活動などのなじみのあるトピックに関して、はっきりと話されれば、簡単な質疑応答をすることができる。 | 順序を表す表現である first, then, next などのつなぎ言葉や「右に曲がって」や「まっすぐ行って」などの基本的な表現を使って、単純な道案内をすることができる。 | 簡単な英語で、意見や気持ちをやりとりしたり、賛成や反対などの自分の意見を伝えたり、物や人を較べたりすることができる。 | 身近なトピック(学校・趣味・将来の希望)について、簡単な英語を幅広く使って意見を表明し、情報を交換することができる。 | 病院や役所といった場所において、詳細にまた自信を持って、問題を説明することができる。関連する詳細な情報を提供して、その結果として正しい処置を受けることができる。 | ある程度なじみのあるトピックならば、新聞・インターネットで読みたり、テレビで見たニュースの要点について議論することができる。 | 一般的な分野から、文化、学術などの、専門的な分野まで、幅広いトピックの会話に積極的に参加し、自分の考えを正確かつ流暢に表現することができる。 |

【参考】CEFR（Common European Framework of Reference for Languages：ヨーロッパ言語共通参照枠）

- ・CEFRは、語学シラバスやカリキュラムの手引きの作成、学習指導教材の編集、外国語運用能力の評価のために、透明性が高く、包括的な基盤を提供するものとして、2001年に欧州評議会（Council of Europe）が発表した。現在、欧州域内外で使われている。
- ・欧州域内では、国により、CEFRの「共通参照レベル」が、初等教育、中等教育を通じた目標として適用されたり、欧州域内の言語能力に関する調査を実施する際に用いられられている。

| | | |
|------------|----|---|
| 熟練した言語使用者 | C2 | 聞いたり読みたりした、ほぼ全てのものを容易に理解することができる。いろいろな話し言葉や書き言葉から得た情報をまとめ、根拠も論点も一貫した方法で再構築できる。自然に、流暢かつ正確に自己表現ができる。 |
| | C1 | いろいろな種類の高度な内容のかなり長い文章を理解して、含意を把握できる。言葉を探しているという印象を与えずに、流暢に、また自然に自己表現ができる。社会生活を営むため、また学問上や職業上の目的で、言葉を柔軟かつ効果的に用いることができる。複雑な話題について明確で、しっかりとした構成の、詳細な文章を作ることができる。 |
| 自立した言語使用者 | B2 | 自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的な話題でも具体的な話題でも、複雑な文章の主要な内容を理解できる。母語話者とはお互いに緊張しないで普通にやり取りができるくらい流暢かつ自然である。幅広い話題について、明確で詳細な文章を作ることができる。 |
| | B1 | 仕事、学校、娯楽などで普段出会うような身近な話題について、標準的な話し方であれば、主要な点を理解できる。その言葉が話されている地域にいるときに起こりそうな、たいいていの事態に対処することができる。身近な話題や個人的に関心のある話題について、筋の通った簡単な文章を作ることができる。 |
| 基礎段階の言語使用者 | A2 | ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など、直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単に日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる。 |
| | A1 | 具体的な欲求を満足させるための、よく使われる日常的表現と基本的な言い回しは理解し、用いることができる。自分や他人を紹介することができる。住んでいるところや、誰と知り合いであるか、持ち物などの個人的情報について、質問をしたり、答えたりすることができる。もし、相手がゆっくり、はっきりと話して、助けが得られるならば、簡単なやり取りをすることができる。 |

【参考】各試験団体のデータによる CEFR との対照表

| CEFR | Cambridge English | 英検 | GTEC CBT | IELTS | TEAP | TOEFL iBT | TOEFL Junior Comprehensive | TOEIC / TOEIC S&W |
|------|-------------------|------------------|-----------|---------|---------|-----------|----------------------------|-----------------------------------|
| C2 | CPE (200+) | | | 8.5-9.0 | | | | |
| C1 | CAE (180-199) | 1級 (2810-3400) | 1400 | 7.0-8.0 | 400 | 95-120 | | 1305-1390 L&R 945~ S&W 360~ |
| B2 | FCE (160-179) | 準1級 (2596-3200) | 1250-1399 | 5.5-6.5 | 334-399 | 72-94 | 341-352 | 1095-1300 L&R 785~ S&W 310~ |
| B1 | PET (140-159) | 2級 (1780-2250) | 1000-1249 | 4.0-5.0 | 226-333 | 42-71 | 322-340 | 790-1090 L&R 550~ S&W 240~ |
| A2 | KET (120-139) | 準2級 (1635-2100) | 700-999 | 3.0 | 186-225 | | 300-321 | 385-785 L&R 225~ S&W 160~ |
| A1 | | 3級-5級 (790-1875) | -699 | 2.0 | | | | 200-380 L&R 120~ S&W 80~ |

英検：日本英語検定協会 <http://www.eiken.or.jp/forteachers/data/cefr/>
http://www.eiken.or.jp/association/info/2014/pdf/0901/20140901_pressrelease_01.pdf
 TOEFL：米国ETS Webサイトに近日公開予定
 IELTS：ブリティッシュ・カウンシル（および日本英語検定協会）資料より
 TEAP：第1回 英語力の評価及び入試における外部試験活用に関する検討会 吉田研作教授資料より
 Cambridge English（ケンブリッジ英検）：ケンブリッジ大学英語検定機構
<http://www.cambridgeenglish.org/exams-and-qualifications/cefr/cefr-exams/>
<http://www.cambridgeenglish.org/exams/cambridge-english-scale/>

GTEC：ベネッセコーポレーションによる資料より
 TOEIC：IIBC <http://www.toeic.or.jp/toeic/about/result.html>
 「L&R」または「S&W」の記載が無い数値が4技能の合計点

※各団体の公表資料より文部科学省において作成